

奈良高専 図書館だより

No. 21

記 事

1. 今年の図書館
図書館委員長 田中富士男
2. 卒業生からのメッセージ
機械 高 橋 多賀雄
電気 遠 藤 正 修
電気 福 山 進二郎
化学 中 村 剛
3. 読書感想文ガイド
4. お知らせ 図書室

1986年 7月 奈良工業高等専門学校図書室 発行

今年 の 図 書 館

図書館委員長 田 中 富士男

昨年11月から95日間の入院生活で、本を読むことの楽しさを再認識できたのは、嬉しいことであった。書物がなければとてもたえられない日々であった。専門の本は余り読めなかったが、専門外の映画や社会問題の書物は、かなり読むことができた。入院で自覚した読書の楽しさ、大切さを学生諸君にも判ってほしいと、本校図書館の充実には及ばずながら努力したいと考えている。

今年の図書館の基本方針は昨年とかわらないが、昨年は方針だけで実現できなかった事を、今年ももう少し実現したいものである。

昨年手を着けた図書館業務の電算化は、ようやく先が見えてきた感じである。1、2年の内には本の貸し出しも電算化できるであろう。その手始めに今年には蔵書点検を兼ねて、すべての蔵書にバーコードを張り付ける事を準備中である。

現在本校図書館には約5万6千の書物がある「はずである」。「はずである」というのは、これだけの本が登録されているものの、一部の不心得な人が無断で持ち出したりして一部不明なものがある。実際それがどのくらいあるものか調べるのが蔵書点検の一つの目的である。

一口に5万6千の本にバーコードを貼るといっても、10冊20冊ならともかく、これだけの本にバーコードを貼るのは大変な作業である。図書館では現在その方法を検討中であるが、何れにしろ学生諸君の協力なしにはできないことは明らかである。こんな作業は読書の大切さ、楽しさを知らない人には、ただの労役にしかすぎない恐れがある。しかしこのようなことを通してでも、書物の世界の広さ、豊かさを知ってもらうことはできないだろうか。一石二鳥は少し無理のようだが、このことを追及する以外は、この大事業もただの大がかりな学生動員に終わるであろう。

毎年やっている読書感想文コンクール本年の課題図書は、後に記載されているように決まった。秋には学生諸君の感想文が集まるわけで、例年以上に充実したものになることを期待している。

また昨年始めて行った「読書と映画の会」も秋には開く予定であり、どんな作品を取り上げるか考えねばならない。学生諸君からも希望を大いに出してほしいものである。

何やかやと学生諸君の協力の必要なことが少なくない。折しも青年世代の読書ばなれ、本ばなれの傾向が報道され、本校図書館でも本の貸し出し冊数は減少済みである。しかし読書の楽しみは限りなく大きく広いものである。学生諸君が大いに本に親しみ、図書館の利用をすすめられることを、強く希望する次第である。

卒業生からのメッセージ

読書のすすめ

機械工学科 高橋 多賀雄

私が5年間の高専生活を振り返ってみて今一番後悔していることは、あまり本を読まなかったことである。それでも年に2、3冊しか読まなかった中学のときと比べると、高専に入ってから平均して月に1冊は読むようになったのであるから読書量は随分増えたわけであるが、5年間で60冊程度ではまだまだ読み足りないと思う。自分としては読書欲は旺盛であり、図書室もよく利用し

※図書帯出カードも4枚目にさしかかったところであるが、過去に借りた本のリストを見てみると専門書がほとんどで小説などはごくわずかである。

入学当初は図書室に陳列された「奈良高専必読図書100選」というのをみて、「これを全部5年間で読んでやろう」などと考えていたのであるが、文学はともかく哲学や伝記などのとっつきにくそうなタイトルのものが多く、文学書を5、6冊読んだだけで最初の決意は断念してしまった。そしてそれからというものは、とにかく本を読まなければいけないという気持ちがあったので、本屋の店頭を飾っているようなベストセラーのなかでタイトルが気に入ったものや、また書いた人の名前を選んで読んでいた。しかし、これらの当時ベストセラーであった本は所詮その時期によく売っていただけであって、必ずしも素晴らしい作品であるとは限らないと思う。現に私が今まで読んだこ

※図書帯出カード(票)一枚で56冊:記録

これらの種類の本の中で感銘を受けたものや、現在でも心に残っているものは少ない。他には、映画などのシナリオの原本や新聞広告などに載っている本を探してきて読んでいた。このなかで特に印象深いのは、五木寛之の「青春の門」という作品である。

映画化されたからご存知の方も多いと思うが、これはある青年が少年から大人へ荒波にもまれながら成長していく姿を描いたものである。

この作品は六つの篇から成る超大作で読みごたえ十分であった。最終篇の最後の一行を読み終えた後、何ともいえない満足感とともに静かな感動があった。私は今まで、何か使命感から読書をしてきたようなところがあったが、この作品によって本当の読書の喜びというものを教えられたような気がした。

今まで読書をあまり好きになれなかった理由の一つとして、文字を一字一字拾って読んでいくのが面倒だというのがあった。それで知らず知らずのうちに読書というものに距離をおいて接していた。それに読書はテレビのように、ただ見ればわかるというわけにはいかない。自分で読んで意味を理解し、自分なりにイメージをひろげていかなければならない。しかし、テレビでは本のように想像力を働かせる必要もないし、また読み終えた後に残る満足感も味わえない。

高専ではあまり文章を書く機会はなく、あるといっても国語の時間や読書感想文、実験レポートぐらいのものであるが、5年になって卒論を書くときになって初めて普段いかに自分が本を読んで

いないかということをお願い知らされた。後輩諸君も遅かれ早かれ卒論を書く時期がやってくるが、その時になって後悔しないように今から1冊でも多くの本を読んでおいてほしい。そして諸君たちが運命的な1冊に出会い、座右の銘となるような名言を見つけ出すことを期待する。

5年間の図書利用を振り返って

電気工学科 遠藤正修

5年間を通じて図書館の貸し出し冊数が非常に多かったということで、今回、卒業にあたって図書館利用についての感想文を依頼される事になった。

自分自身、読書が好きだったということだけで特別に図書館に対する意見や感想は持ち合わせていないので、ごくありふれた書き方であるが、入学当時の印象、自分自身の利用方法、今後改善して欲しい事項を順に記していく事にした。

5年前、初めて図書館に足を踏み入れた時、まぶびっくりさせられたのはカウンターの前にある雑誌類であった。中学校では全く図書館を利用することはなかったものの「図書館にはとっつきにくい難しい本しか置かれていない。」という先入観を持っていたので、この事には非常に驚かされた。そして、カウンターの奥には専属の図書館員の方がおられ、随時、本の貸し出し、返却が可能である事もこの時察知できた。さらに足を進めていくと、再度驚かされた。なぜなら、想像していた本の数の数倍もの本がそこには置かれてあったからである。文学、社会、言語、自然科学、辞典、電気・機械・化学の各専門分野の本がずらりと並べられてあった。ぼくは、この時、とっさに「これは大いに図書館を利用しないと損だな。」と実感した。ぼくの入学当時の印象は以上の様なもので、はなはだ、他の校舎とは趣の違った図書館にただただ驚かされるばかりであった。

さて、この辺で自分が5年間どの様に図書館を利用して来たかを述べなければならないと思う。5年間を通して利用した帯出カードは通算13枚に及んだが、これに対して、もし「その13枚の帯出カードに記された本の全てを隅から隅まで読んだか。」と問われれば、直ちに「借りた本、全てを

読み尽くしてはいないし、むしろ、読み尽くす事は不可能だろう。」と答える。実験の報告書の参考文献または授業の参考書として借りた本などは部分的にしか読んでいないし、一度借りたものの読み進めていくうちに面白味を感じなくなり、途中で返却した本もあった。また、時には返却期限2週間で読み切ることができず、そのまま再貸し出しをせずに返却してしまった事さえあった。

こうした図書の利用の仕方は読書という観点から見て、あまり感心できないと言われる人もあると思う。しかし、科学関係の本について特に言える事であるが、本当に読み切りたい本ならば後々自分の物として保存しておきたいと思うのが普通であるから、そういう本は購入する方がよい。むしろ、そういった本当に自分の物として読み切りたい本を見つけ出すのに図書館を利用すれば良いのではないかと思う。すなわち、その時々に応じて興味を持った物に関する本を多数図書館で借り、部分的にでも一読してみる。こうすれば、一つの事に関しても多数の見解を得る事ができ、また、その中で自分が欲しいと思った本があれば購入し、通読すればその事について何かしら満足 of いくものが得られるはずである。上では科学関係の本について述べたが、文学の本などでも同様に図書館を利用して乱読し、その中から気に入った物だけを読み通していけば良いと思う。

最後に、5年間、図書館を利用してきて気になっていた問題点を将来実現される貸し出し、返却及び本の管理の電算化を兼ね合せて考えてみたい。まず、電算化を行う場合に改善しなければならないのは、現在の書名記入式の図書カードである。現在の図書カードでは借りる際に一つ一つその書名を記入しないといけないので非常に面倒である。この点は図書カードと本にそれぞれ統一した番号を割り当て、その番号だけで処理する様にすれば簡単に改善できる。次に図書の貸し出し期限であるが、この点は前述した様にページ数の多い本は2週間で読み切れない場合がある。そこで、ページ数や内容の難易度によって貸し出し期限にある程度の幅をもたせても良いのではないかと思う。最後に、これは特に気になった点であるが、同じ本がいくつも置かれている点である。これについては、一部を倉庫に保管しておき、1冊貸し出される度に、倉庫から一冊出してくる様にすればスペースの有効利用にもつながっていくはずである。

以上、まとまりのない無味乾燥な内容を、だら

だらと記してしまいましたが、今後の図書館の発展を願ひまして、結びとしたいと思います。

卒業を迎えて思うこと

電気工学科 福山 進二郎

5年生になって間もない頃に「福山君も5年になったのだねえ。」と、すれ違いざまに言ってくださった小谷先生から、今度は「図書館だよりに載せるから、卒業にあたって何か書いてほしい。」との依頼を受けました。

こういうところに名前が載るのは、元々好きな方なので、「もう卒業なんだなあ。」とか思いながら、安易に引き受けてしまいました。が、ふと考えると、僕の5年間の帯出カードの消費枚数は1、そして実際に使用した枚数は0であることに気付いたのです。

というわけで、図書館とか、読書とかいったことについては、何も書けないので、上記の題名で、後輩諸君に言いたいことを書いていきたいと思います。

卒業を迎えて思うこと……「みんな、卒業していいんだろうか」ということです。みんなというのは、僕と同期の学生みんなですが、そのほとんどが、エンジニアに、社会人になるのです。いいんでしょうか？

これを読んでいるみなさんも、あと何年かで卒業を迎えるわけですが、その時、自分が一人前のエンジニアになれると自信が持てますか。

今ここで、僕が皆さんに言いたいのは、とにかく勉強はして下さい、ということです。

高専へ入学した皆さんは、その時点では、それぞれの分野でのエンジニアを目指していたはずですが、でも僕は、ただなんとか卒業・就職とうまくやり過ごしてなれたエンジニアには、満足してほしくないと思うのです。

確かに、仕事に絶対に必要なことは、社会に出たからいやでも教えられるんでしょうが、それだけしか知らないのでは、常にその最低限必要なことの習得に追い立てられて、それしか出来ない、幅の狭いエンジニアになってしまうでしょう。いわゆる「歯車の1つに過ぎない」ことになるのです。

「それでもいい。仕方ない。」と言えばそれまでですが、そんなあきらめみたいな中で仕事をするのは、情けないと思いませんか。少なくとも僕は、そんな生活はイヤです。

よく言われる「学校での勉強なんか、社会に出たら役に立たない。」という言葉に、僕は反感を覚えます（試験で点をとるだけというのは別ですが）。直接役に立たないかもしれませんが、そういうことも知っている必要があると思うのです。

何か問題が起こっても、その原理や関連事項を何となくでも image し、対応していけるだけの sense があってほしいですから。

自分の仕事に対して specialist になれ、というのは、確かにそうですが、それだけで満足してほしくありません。関連分野のエンジニアとしての仕事であれば、さっき言った「歯車の1つ」くらいならすぐに対応出来る基礎概念を身に付けたい。自分の専門をきわめてほしい——いわば、all mighty な specialist を目指してほしいのです。そして初めて、自分は professional engineer だと、胸を張って言えると思うのです。

これは容易なことではありませんが、「自分なら出来る」と思うことは、うぬぼれではないと信じます。将来、学卒・院卒の人間と、技術者として対等の扱いを求めるならば、「自分はそれだけの能力がある人間だ」というプライドを、自分で持てなければならぬし、そのためには、相応の努力が必要でしょう。先生方の情けにすがっているばかりでは、プライドなんて生まれて来ないし、情けをかける方も、怠慢に対するあきらめから仕方なしにかける情けより、努力を認めて積極的にかける情けの方が、情けのかけがいがあるでしょう。

また、確固たるプライドが持てれば、時には必要な大胆さも出てくるでしょう。蛇足ですが、ハメをはずす場合でも、Alcohol で理性を流すのではなく、雰囲気自分に順応させる——シラフで酔えることが、21世紀にはばたくエンジニアの必須条件である、と僕は常々思っています。

卒業するからって、急に偉くなるわけでもないのに、説教じみたことを書いてすいません。

でも、情性に流され、情けをかけて何とか格好をつけてもらっている奴が、それを全く自覚しないで偉そうな顔をしている奴が、同期の学生や皆さんの中にも多く見受けられたので、機会があったら一言いって卒業したいと思っていたら、機会

が与えられたので書かせていただきました（学生だけでなく、教官の方々にも言いたいことはあったのですが）。

いろいろ書いてきましたが、今熱中することがある人は別として、そうでない人は、とにかく勉強して下さい。エンジニアを目指した（高専へ行けばわりと楽になれるから、というのでも構いませんから）初心を思い起こして、高い目標とプライドを持って、未来の自分を支える自信を築いて行って下さい。

高専卒業を迎えた僕でもまだ二十歳——理想を追いかけて悪い年齢でもなく、また、希望を棄てるには若すぎる年齢だと思いますから……。

最後に、幅広い知識と教養を持ったエンジニアになるために、本もたくさん読みましょう。ということで、図書館だよりに名前を残して、僕は気分よく卒業して行きます。

後輩諸君の健闘を祈ります。

Good luck to you !

図書帯出票を顧みて

化学工学科 中 村 剛

今、手元に古ぼけた4枚の図書帯出票がある。5年間で図書館から借り出した本の記録である。これらを眺めていると自分の青春時代の精神的変化を見ているような気がしてきた。

No.1、すなわち1、2年の帯出票には比較的多くの文学書の題名が載っている。あの頃はまだ、高専の校風になじめず、救いを求めて小説を手当たり次第読んだ。そのなかで一番印象に残っているのは、1年生の時の夏休み課題図書の一つであった『高熱隧道』である。冒険心旺盛な私は、「岩盤最高温度165度を征服した難工事」という言葉に魅せられて読みはじめたのだが、読み終えた時には、指導的立場にある技術者の仕事への執念に心を打たれると共に、責任と誇りを自覚したものだ。ほかにも色々読んだ。そして、自分を現実とは、かけ離れた立場に置くことによって、現実の自分を客観的に見ることができたと思う。

しかし、No.2の中頃、すなわち3年生の頃から文学書をほとんど読まなくなっている。読めなくなってきたのかもしれない。部活動でも主力メン

バーに加わり、忙しくなってきたし、専門科目も増えてきて、図書館は自分にとって人生の模索の場というより、宿題やレポートを書く場と化してしまった。この頃から1年生の時から続けていた日記もやめてしまったようだ。

No.3、すなわち4年生の時に借り出した本もほとんど専門書だが、その中で唯一の小説は「宮本武蔵」である。NHKのドラマを見て感激した私は、衝動的に吉川英治の原作をむさぼり読んだのだが、後に『五輪書』や『真説宮本武蔵』を読むぐらいに彼のファンになってしまった。男が男に惚れるという言葉が適当だと思う。すべての欲求を断ち、剣のみに生きた彼に憧れを感じた。彼のような生き方が通用しない現代だからこそ特にいわゆる武士道に憧れを感じたのだろう。しかし、全く現代に通用しないものでもない。彼の書き残した五輪書の中で、私の最も好きな言葉は、「思いありて思いなし、心をつけて心をつけず」という言葉である。最終目的を成就しようとするならば、そのことを意識しているようではいけない。意識しなくなるまで鍛錬せよ。ということだと、私は解釈している。

No.4、すなわち最終学年は、ほとんど卒研関係の本である。

私は高専生の中でも小説を読まなかった部類に属すると思う。もっと多くの文学書を読めば良かったと後悔している。

後輩諸君、私と同じような後悔はしないほしい。頭の軟らかい時に多くの文学書を読んで、大いに感動してもらいたい。いつかきっと役に立つことがあるはずだ。

最後に色々とお世話になった奈良高専図書館の山口さん、福井さん、桑原さんに厚くお礼申し上げます。



読書感想文ガイド

本年度の課題図書について

図書館委員会

本年度の読書感想文コンクールの課題図書が決定しました。課題図書は、どのような手続きを経て決まるものなのか、ときどき質問を受けますので、この機会に説明しておきましょう。

先生方の校務分掌の一つに、図書館の管理運営問題をつかさどる図書館委員会があり、各学科から選出された8人のメンバーで構成されています。課題図書は、この8人に国語科の2人を加えた委員会で検討され、決定されるのです。

毎年4月から準備にとりかかり、7月の月例会で最終決定を見ます。先生方全員に候補作品の推薦を依頼し、集まった作品の中から、難易度や長短、価格などさまざまな条件・事情を考慮しながら、決めて行くのです。文庫本・新書版に限定していること、また、小説・ノンフィクション・社会科学・自然科学など幅広い分野が対象となっていることなどが、本校の課題図書の大きな特色となっています。

本年度は、小説・非小説おのおの8冊ずつ、合わせて下記の16冊に決まりました。配付された「読書感想文提出の手引き」を読み、説明を聞いて、自分に適した作品を探し当ててください。図書館のカウンターにも展示してありますから、手に取って見てください。購入の便をはかって郡山駅近辺の書店には、品揃えをしてくれるよう申し入れてあります。

さて、どの本がよさそうですか。課題図書は、低学年向きの易しいものから、難しいものへと順に並べてあります。非小説類も同様です。1と2は、おもしろく読めるでしょう。3は、よく読まれている課題図書の古典です。4と5では、社会に自分をささげる主人公の生き方をどう思うでしょう。6は、高学年向きの文学作品です。7は、巨大な毒虫が家族にとっての「困り者」の寓意であると分かれば、理解が深まるでしょう。8は、本校で初めてとり入れたSF小説です。ファンを自負する諸君、いかがですか。

9と10は、ノンフィクションですが物語のように読めます。それぞれ、日中、日朝の不幸な歴史的関係を背景にした作品です。諸君は、これを読んでどう思うでしょうか。11は講演集で、日本人にとって大切な理性の確立という問題を説いています。12は著名な画家のエッセー、13と14は科学を専攻する本校生に一読を勧めたい好著です。15は、高学年の学生を対象に考えています。16は、部落差別の問題をテーマにしています。

どの本も、是非読んで欲しい本ばかりです。感想文を書くのは一冊ですが、友人間で貸し借りするなどして、多くの課題図書を読んでください。心のこもった感想文を期待しています。

〔課題図書目録〕

小説類		非小説類	
1	兎の眼 灰谷健次郎 新潮文庫	9	流れる星は生きている 藤原てい 中公文庫
2	春の道標 黒井千次 新潮文庫	10	生きることの意味 高史明 ちくま文庫
3	友情 武者小路実篤 角川文庫	11	「自分で考える」ということ 澤瀉久敬 角川文庫
4	アラスカ物語 新田次郎 新潮文庫	12	白夜の旅 東山魁夷 新潮文庫
5	赤ひげ診療譚 山本周五郎 新潮文庫	13	南極越冬記 西堀栄三郎 岩波新書
6	野火 大岡昇平 角川文庫	14	絶対零度への挑戦 K.メンデルスゾーン ブルーバックス
7	変身 カフカ 角川文庫	15	文科的理科の時代 藤井康男 福武文庫
8	沙漠の惑星 スタニスワフ・レム ハヤカワ文庫	16	荆冠の叫び 西口敏夫 部落解放新書

決定された推薦図書には、それぞれ学生諸君に是非読んでもらいたい、という理由があります。下記に石垣先生（化工）をはじめ、荒金・京兼・泉先生が推薦された「私の推薦する理由」を掲載します。

これを読んで、本を選び、感想文を書く時の参考にして下さい。又、少しドロナワ（泥縄）式のきらいがありますが、どう書こうか、と迷っている時に下に掲げた本も併せて読んでみては如何でしょうか。図書館の本を読んで損をする、ということはありません。では張切ってスタートして下さい。

〔推薦文とその理由〕

南極越冬記 西堀栄三郎著 化学工学科 石垣 昭

この本は第一次南極越冬隊の隊長であった西堀栄三郎さんの越冬時のメモに基づいている。これは単なるドキュメンタリーなどというものではなく、極限状況下に隊のリーダーとして一年間、年齢も性格も、経歴もまるで異なるメンバーをまとめながら、基地の設営、探検を指揮するかたわら、乏しい機材で、我々が普段かえりみもしない身近な材料を工夫して活用しながら、自らの手で実験を行ない、不明な点を明らかにして行く過程が克明に記されている。

西堀さんは少年時代から南極探検の夢を持ち続けると共に、将来、技術者となることを目標としていたという（NHK、21世紀の視点）。今日、世界の驚異的である日本製品の高品質を支えた、QCサークル活動も西堀さんの発想によっている。この本のなかにも、すぐれた科学者であると同時に、独創的な技術者としての西堀さんの考え方が随所に表われている。

本物の実践的技術者とはどのようなものか、この本はそれを教えてくれるであろう。

兎の眼 灰谷健次郎著 数学科 荒金 憲一

蠅の研究をしている子供のことが書いてあるが、それも一つの人生だと思った。又その子供をめぐる教師、周囲の温かい目、助け合って生きている人達のことなどを知ってほしい、と思った。

流れる星は生きている 藤原 てい著 数学科 荒金 憲一

作家・故新田次郎氏夫人であり、数学者・藤原正彦氏の母堂でもある著者は、敗戦、引揚げという極限状況を必死に生き抜く。その人間心理を著したものであることに感動を受けた。

荊冠の叫び 西口 敏夫著 電気工学科 京兼 純

人権、及び差別について分かり易い入門書であること。又生きることの意味を併せて読めば一層理解し易いと思います。

白夜の旅 東山 魁夷著 化学工学科 泉 生一郎

高名な日本画家であり、エッセイストとしても著名な著者のデンマーク他5カ国の旅日記である。間に挟まれたスケッチや、絵に関係した描写が感動的で、早く読めるということでもおすすめできる。

〔感想文を書く時に参考になる書籍一覧〕

読書感想文の書き方	松尾弥太郎編著	ポプラ社
考える読書 第26回読書感想文 中学・高校の部		毎日新聞社
学校読書調査25年 一あすの読書教育を考える一		毎日新聞社
文章の作り方	(作法叢書)	塩田良平 明治書院
文章の書き表し方	(")	大倉佐一 "
論文・レポートの書き方	(")	八杉竜一・竹内敬人 "
書く力をつけよう	(岩波ジュニア新書68)	工藤信彦 岩波書店
もっと本を読もう ヤングのための読書ガイダンス		増田信一 リブリオ出版

〔お 知 ら せ〕

1986年度 図書館委員の紹介および学生図書委員の紹介

教官

学生

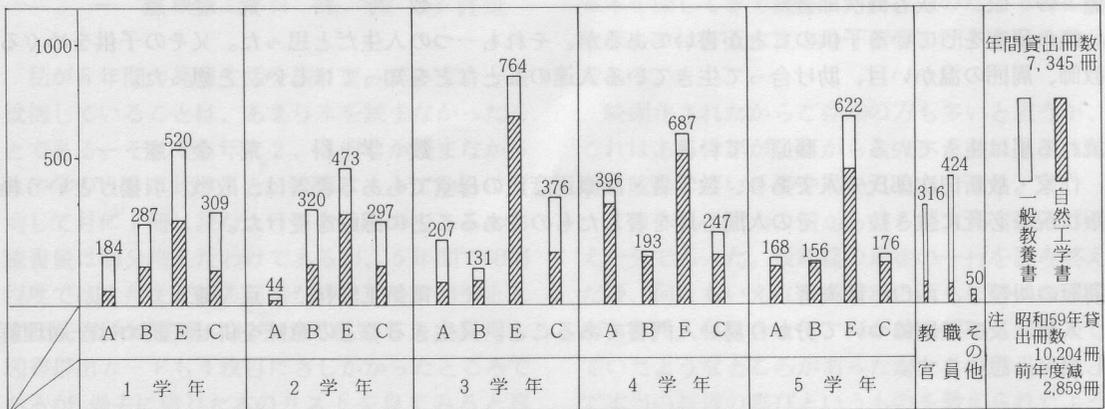
学 科	図 書 部 会	視聴覚部会	紀 要 部 会
一 般	◎田 中 ○細 井		細 井
機 械	福 嶋	○岩 井	岩 井
電 気	谷 本 伊 瀬	谷 本	伊 瀬
化 工	石 河 垣 越	石 垣	○河 越

1 MA 尾 形	2 E 山 口	4 MB 藤 下
1 MB 小 林	2 C 杉 野	4 E 関
1 E 茶 木	3 MA 南 部	4 C○羽 田
1 I 岸 田	3 MB 井 村	5 MA 田 中
1 C 温 井	3 E 大 塚	5 MB 三 宅
2 MA 池 浦	3 C 坂 本	5 E 谷 口
2 MB 吉 村	4 MA◎大久保	5 C 吉 川
西 井		

◎ 委員長 ○ 部会長

昭和60年度 図 書 室 利 用 統 計

〔クラス別貸出冊数〕



〔分類別蔵書構成〕 昭和61年5月現在

総記	哲 学	歴 史 学	社 会 学	自 然 科 学	工 学	産 業	芸 術 学	語 学	文 学	文 新 庫 書
2,125		4,280	2,493	11,701	15,024	202	2,509	3,337	8,626	4,169
2,094										

〔編集後記〕

図書館だよりの発行が遅れました。お詫びをいたします。狭い図書室のヤリクリに四苦八苦したり、仕事の電算化に取り組んでいるうちに、利用統計の数字がガタッと落ち込んで、私たちも肩を落としています。

新学期がはじまったら灯火親む「読書の秋」です。良い感想文を書くためにも、一冊でも多くの本に親しみ、大いに図書室を利用して下さい。